

# ふるさとの育む人

#29  
「トルコギキョウ」



育む人 佐々木 厚生 さん 雄物川地区 58歳

生産品目：トルコギキョウ ハウス6棟、金魚草(冬期) ハウス3棟、  
水稻(受託含む) 5畝

## 幅広い用途で人気の品種「トルコギキョウ」

「優美」や「希望」などの花言葉をもつトルコギキョウ。品種や色の豊富さ、花持ちの良さなどから、贈り物やフラワーアレンジメント、また最近では仏事にと、幅広い用途で人気の高い花です。

JA秋田ふるさと(横手市)では、今年4月、JAおものがわたの合併に伴い、花卉総合部会が「トルコギキョウ部会」を新設。29人の生産者が栽培しており、いま、産地拡大に向けた一歩を踏み出しました。出荷期間は7月から11月。県内や宮城、首都圏の市場に出荷し、今年度は出荷量57万本、販売額7700万円を見込んでいます。



## 凛としたたずまいに感動し、栽培25年

同部会の佐々木厚生部会長は、トルコギキョウ栽培25年目。トルコギキョウの凛とした佇まいに感動して以来、美しい花づくりに日々汗を流しています。厚生さんのハウスでは、2月下旬の定植作業から開始。夏場には急激な気温上昇で開花が早まらないよう、ハウス内の温度管理や水やりなど、常に生育状態に目を光らせながら、その生産に励んでいます。

厚生さんは、「土づくりが栽培の要。花のボリュームや草丈などの生育を左右するので、豊かな土づくりは欠かせない」と自らを鼓舞し続けます。



## ピーク時の出荷量は1日50ケースに

全ての作業は、妻の康子さんとの二人三脚。収穫前には「芽かき」を行い花の肥大を促すほか、収穫は、早朝から花一つひとつを切り取った後、品種ごとに束ねて出荷。6月の結婚式シーズンやお盆などのピーク時の出荷量は一日50ケースにも上り、一日がかりでの作業が続きます。

「作業のほとんどは手作業。栽培を続けることができるのは、妻のおかげだ」と厚生さんは微笑みます。



## 販売額1億円を目指し、いま、産地拡大へ

トルコギキョウ部会ではいま、販売額1億円を目指し士気を高めています。厚生さんは部会長として「部会の発足を機に栽培管理や調整方法を統一し、仲間とともに産地拡大に向けてまい進したい」と意気込んでいます。前を見据え、力強く語るその表情からは、地域農業をけん引する農業者の熱き情熱があふれ出ています。